

令和3年度学校評価のまとめ

1 教職員による学校評価（自己評価）

(1) 数値による評価

- ・ 「安心・安全」に関する項目④・⑥、「信頼」に関する項目⑦・⑧・⑨については、高評価（「4」もしくは「3」）の割合が学校全体で95%以上だった。中でも、項目④については、7月の結果より高評価の割合が9%ほど増えている。GWを活用した情報共有（ヒヤリハット事例、危険箇所等の紹介等）や下校時の安全管理の充実などを通して、職員一人一人の意識が高まってきた成果だと考えられる。様々な情報を発信するだけでなく、学部や学年部等で共有、改善することで、安全に配慮した教育環境の整備や事故の未然防止を進める必要がある。
- ・ 「業務改善・働き方改革」に関する項目⑩については、学校全体での高評価の割合が、80%を下回っている。学部別では、小学部で24%、中学部で26%、高等部で28%の職員が「2（やや不十分）」もしくは「1（不十分）」と評価をしており、記述意見も多く挙げられている。各学部とも高評価の割合が、7月の結果より6～8%ほど減少している。「1分掌1業務の削減」など、職員一人一人の意識をさらに高め、業務の見直しや簡素化について、具体的に実践を続けていく必要がある。

(2) 記述による評価

- ・ 挙げられた意見をおおまかに分類すると、「業務改善の推進」に関する意見が20件、「職員間の連携や情報共有による同僚性の向上」に関する意見が27件挙げられている。例年、これらに関する意見は多数挙げられており、本校の大きな課題といえるが、今年度は、職員間のコミュニケーションの充実や働きやすい雰囲気づくりに関する意見が多数挙げられていることが大きな特徴である。職員間の連携や情報共有を深めるための土台として、まずは互いを思いやり、サポートし合えるような関係性を築き、職員一人一人が働きやすいと感じる職場環境をつくっていく必要があると考える。

2 学校評価（保護者アンケート）

(1) 数値による評価

- ・ 学校全体では、項目6「通知表の工夫」に関する取組が高く評価されている。
- ・ 小学部では、項目3「個別の教育支援計画の活用」、項目6「通知表の工夫」、項目8「楽しい学校」、項目14「道徳や社会マナーの指導」に関する取組が高く評価されている。
- ・ 中学部では、項目2「学校からの情報発信」に関する取組が高く評価されている。
- ・ 項目4「開かれた学校づくり」、項目7「交流および共同学習の推進」、項目9「活発なPTA活動」に関する取組は、「2：やや不十分」、「1：不十分」の割合が、15%前後ある。また、「0：分からない」という評価の割合が10%前後ある。これらは、昨年度も見られた傾向であり、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校行事やPTA活動等が制限を受け、評価が難しいと感じている保護者が多いことが原因と考えられる。
- ・ 項目10「進路指導の充実」に関する評価については、高評価の割合が高等部では83%であるのに対して、小学部では61%、中学部では72%である。このような傾向は、例年見ら

れるため、本校の課題であると考え。一方、小学部では、「0：分からない」の割合が、昨年度同様に30%近くあるのに対し、中学部については、「0：分からない」の割合が、昨年度より8%減少していることは、成果の現れであると考え。学部・学年PTA等を利用して、教師と保護者間で進路指導に関する情報共有を行ったり、身辺処理や読み書き、友達との関わりといった普段の学習活動が進路指導につながっていることを啓発したりするなど、発達段階に応じた進路指導について理解を深めてもらうための取組をさらに継続する必要がある。

(2) 記述による評価

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた本校の取組に対する意見が多く寄せられた。今後も引き続き、新型コロナウイルスの影響で学校行事やPTA活動等が制限されることが予想される。感染症対策の徹底しながら開かれた学校づくりを進めるために、学校行事やPTA等の実施方法をさらに工夫していく必要である。
- ・ 学級編制、職員の配置、指導方法等について、改善を求める意見がいくつか挙げられた。保護者との連携を深め、その思いを十分にくみ取りながら個に応じた対応をより充実させる必要がある。また、指導方法については、学年・学部間で連携をとりながら、より適切な指導を検討・実践する必要がある。
- ・ 通学バスの運行や登下校時の状況について、複数の意見が挙げられたことは、今年度の特徴である。学校だけの取組では改善が難しい意見もあるが、職員の意識や行動で改善できるものに関しては、早急に対応する必要がある。

3 学校評価（児童生徒アンケート）

児童生徒会役員8人を対象に実施し、7人から回答を得た。各項目とも、おおむね高い評価を得ている。今後も引き続き、児童生徒一人一人に寄り添った指導を充実させる必要がある。

4 次年度に向けた改善策

- ・ 「教育活動やPTA活動の充実」と「感染症対策の徹底」という両輪を進め、保護者や地域に開かれた学校づくりを目指す。
- ・ ヒヤリハット事例や校内の危険箇所等に関する情報を共有、改善することで、安全に配慮した教育環境の整備や事故の未然防止をより一層進める。
- ・ 教師と保護者間で進路指導に関する情報を共有したり、普段の学習活動が進路指導につながっていることを啓発したりすることで、発達段階に応じた進路指導についての保護者理解をさらに深める。
- ・ 業務改善に対する職員一人一人の意識をさらに高め、行事や研修等を具体的に見直すことで、業務の簡素化を進める。
- ・ 職員同士が互いを思いやり、サポートし合えるような関係性を築き、一人一人が働きやすいと感じる職場環境づくりを目指す。